

シエムリアップ MoiMoiライフ

ISSUE
72

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



- 小出陽子 (Yoko KOIDE)
- 一級建築士。2000年、UNESCO 遺跡保存オフイス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シエムリアップにレストラン「Cafe Moi Moi」をオープンする。現在は、建築設計とレストラン経営のかたわら、JST (NGO、アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構) を運営し、農村地域の支援活動を行っている。
- JST ホームページ <http://www.jst-cambodia.net>

20年の重み

「日本国政府アンコール遺跡救済チーム (JSA-JASA)」は、1994年の発足から今年で20年を迎えることとなりました。

現在は、カンボジア人専門家7名、修復技術者54名が中心となって、バイヨン寺院外回廊東面の景観整備を行っています。20年前のカンボジアは、皆が貧しく、政情も不安定な状況でしたが、大学卒業直後から遺跡修復に携わっている専門家たちは、紆余曲折がありながらも、今ではすっかり腰を落ち着けて修復作業に取り組み、着実に成果を上げるようになりました。

そんな彼らは、数年前から、カンボジアの子供たちの教育にも目を向けています。多くの外国人観光客で賑わいをみせるアンコール遺跡群ですが、実は、カンボジアの子供たちの多くは、アンコール・ワットやバイヨン寺院を一度も訪れたことがありません。カンボジアの学校では、アンコールの歴史や遺跡について学ぶ機会はほとんどなく、遠足や社会見学会といった教育プロ

MoiMoi Life in Siem Reap Efforts for the last 20 years

It has been 20 years since the establishment of "Japanese Government Team for Safeguarding Angkor (JSA/JASA)". Currently, the team is implementing restoration work at the East side of the outer gallery of Bayon Temple, led by 7 Cambodian Experts and 54 Restoration Engineers. Now the Experts produce successful results after going through all sorts of troubles and difficulties for the past 20 years.

The team also focuses on children's education. Cambodian children are rarely given the opportunity to learn about the archaeological sites at school or home. Through JST's program, local students enjoy learning about the history, construction, and restoration methods with Cambodian restoration experts.

The Experts who were once students are now the teachers for the next generation. We believe educating Cambodian children about the beauty of their heritage helps shape the future of Cambodia.

グラムもないからです。また、農村部に住む彼らの親の世代は、識字率が低く、歴史や遺跡に関する知識が乏しいうえ、食べていくのがやっとという毎日を送り、遺跡訪問どころではないというのが実情なのです。

そのような中、JST主催の「子供たちのための社会見学会」では、カンボジア人修復専門家が、地域の小学生に、アンコールの歴史や当時の建造技術、そして修復の方法を伝える試みを実践しています。参加した子供たちは、初めて見る遺跡に驚き、それらを造り上げた自分たちの祖先の偉大さを知って誇らしく感じるのでしょう、皆興奮しながら遺跡を後にします。

教えられる側から教える側へと成長した専門家たちに20年の歳月の重みを実感するとともに、今、1人でも多くのカンボジアの子供たちに祖先からの遺産の素晴らしさを伝えることが、20年後のカンボジアを形づくることに繋がるのだと感じています。